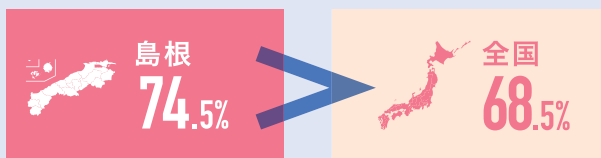


# 働きたいと思う女性の 「働く」を応援しています

知っていますか？ 島根県の現状

15才～64才(生産年齢人口)の女性の有業率  
(H29就業構造基本調査)

全国第2位



女性の働き続けやすさ  
(H26男女共同参画に関する県民の意識調査)

約7割が

働き続けにくい  
と回答

働きたいと考える女性が職場でいきいきと働き続け、活躍するために  
島根県では様々な取り組みを実施しております。

## 「しまね働く女性きらめき大賞」

職場でいきいきと活躍するとともに、プライベートも充実させている女性を、  
働く女性のロールモデルとして表彰しています。



第1回 受賞者のみなさん

安部寿鶴子さん(道の駅本庄企業組合)  
實重 温子さん(アサヒ工業株式会社)  
時耕 彩さん(株式会社浜田あけぼの水産)  
林 真弓さん(株式会社さんびる)  
増原由紀さん(株式会社バイタルリード)



第2回 受賞者のみなさん

景山玲子さん(株式会社長岡塗装店)  
川井香織さん(川井香織建築設計事務所)  
菅野杏奈さん(岩成工業株式会社)  
西村亮子さん(株式会社谷口印刷)  
樋野京子さん(モルツェル株式会社)  
吉原 香さん(有限会社吉原木工所)

島根県には働く人を大切にしている企業がたくさんあります。



女性がいきいきと  
活躍できる  
職場環境づくり  
に取り組む企業



子育てにやさしい  
職場づくりに  
取り組む企業  
認定企業数  
289社(H31.1月末)



雇用に関し  
優れた取組みを  
行う表彰企業  
受賞企業数  
31社

問い合わせ

島根県環境生活部環境生活総務課男女共同参画室 島根県男女共同参画室 検索  
電話:0852-22-5245 FAX:0852-22-5636 メール:danjokyodo@pref.shimane.lg.jp

しまね  
女性活躍  
応援企業

# しまね 働く女性 きらめき レポート Report

Shimane Hataraku Jyosei  
Kirameki Report

しまねの女性の  
働き方に  
学生目線で  
迫りました!

女性活躍推進へ  
積極的に取り組む  
オフィスを  
訪問しました!!

女性の働き方紹介  
Work Style  
座談会  
クロストーク

女性が働きやすい企業は、みんなが働きやすい企業です。

Kirameki Woman

女性活躍推進へ

# 積極的に取り組む オフィスを訪問 しました!!

「しまね女性の活躍応援企業」を、  
島根大学・島根県立大学・松江高専の学生たちが訪問。

女性がいきいきと  
働き続けやすい環境づくりの取り組みや、  
女性たちの働き方について、  
学生目線で迫りました!



しまね  
女性の活躍  
応援企業

島根県では自社における女性活躍の推進に向けて積極的に取り組む企業・団体を「しまね女性の活躍応援企業」として登録し、HPで紹介するなど魅力発信を応援しています。

●2019年2月現在  
登録企業数：190件

## 【取材した学生の皆さん】

島根大学 小松 茜さん、内田 啓介さん、中原 広喜さん  
島根県立大学 角田 直也さん、上田 友哉さん、津田 智子さん、鼓 侑香さん  
浦安 克さん、小具 千紘さん、山名 深月さん  
松江高専 加藤 玲花さん、佐伯 日菜子さん、野津 美羽さん

## Report 01

# 社員それぞれに 合わせた雇用形態!

〔(有)けんちゃん漬〕 出雲市



動画はコチラ



けんちゃん漬は、出雲地方の野菜を中心に、国産野菜を使用した手作りの漬物専門店です。昔からあるお漬物を手間を惜しまず、丹精込めて作ることで伝統の味を守り、子どもから大人までたくさんの人に安心して食べてもらえる商品を提供しております。実際に、お邪魔させていただいた製造工場の従業員数は、約20人でとてもアットホームな雰囲気でした。そんなけんちゃん漬では、社員それぞれにあった働きやすい環境を整えることで一人一人が持つ力を発揮し、男女の差異なく、活躍してほしいという社長の思いから女性活躍推進活動に取り組んでおられます。

## ♡きらめきポイント♡

就業時間の短縮

早退・休暇を取りやすくする環境づくり

産休・育休がとりやすい

## Q & A

### スタッフさんへ質問!!



#### Q.この職場を選んだ理由

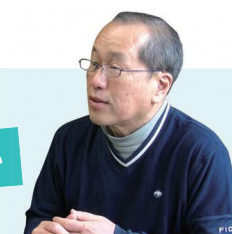
仁宮さんは、けんちゃん漬では、先輩女性社員が実際に育児と仕事を両立されていたことや、自分の知識を生かせる仕事であったため選んだと、こやかに話されました。

#### Q.仕事と子育ての両立について

鶴本さんは、出勤して1時間程度で子どもの体調不良などで帰らないといけない時もあるが、周囲の理解があるので、申し訳ないという気持ちもありながら、安心して帰られるとほっとした表情で話されました。

## interview

### 経営者さん、 担当者さんの想いを 聞きました!



社長 成相 善美さん

子育てをしながらも働きやすい環境を整えることで、大事な社員さんに喜んでもらえることは、自分自身も子どもを持つ親の一人として、子育ての大変さが分かるため非常にうれしいことです。パートタイマーから正社員へのステップアップや正社員の就業時間の変更など、現在も取り組んでいますが、これからも個人に合わせて柔軟に対応していきたいと思っています。

## 取材を終えての感想

取材者 加藤 玲花さん、佐伯 日菜子さん、野津 美羽さん

今回取材をして、社員一人一人への信頼の深さや、会社全体が家族のような、暖かいアットホームな雰囲気を感じました。実際に働いている社員の方も女性の方が多く、また、仕事のやりがいや生活の充実も感じていると聞き、これから女性が活躍していく社会になるためのお手本になるような素敵な会社だと感じました。今日の日本の職場環境では、仕事と家庭との両立や男性との立場の違いなど女性にとってまだまだ不安な要素も多いのが事実です。自分自身もこれから就職し、働いていく中で、より女性が働きやすく、活躍できる時代になっていくことを強く望んでいます。



## 法人データ

有限会社けんちゃん漬  
〒699-0731 出雲市大社町逢坂403  
業種：食品製造、小売業  
従業員数：27名(うち女性18名)

# Report 02

## プライベートも スキルアップの場に!

〔(株)Woman's〕 益田市

Woman'sは、人々が働く時に自分の力が発揮でき、やりがいを感じられるためのサポートをするキャリアコンサルティング事業をしています。女性活躍推進に取り組むきっかけは、社長が子育てをしながら仕事をする上で、自分の力をいっぱい発揮したいのに、できない事情が起きる事を残念に思い、自分の力が発揮できる働き方は何なのか追及した事でした。この会社は、働くお母さんがみんな笑顔で、自分らしく働くことで充実すると共に、楽しんで子育てができ、いつも子どもに対して幸せな気持ちで接することができる、そんな時間が増えてほしいという社長の想いから設立されました。



動画はコチラ



### ♡きらめきポイント♡

独自の特別休暇制度

ダブルワークが可能

研修制度の充実

### Q & A

スタッフさんへ質問!!



**Q.時間単位取得のワーク・ライフシナジー休暇とは?**

例えば子どもの個人懇談がある場合は、それに合わせて仕事を割り振り、2時間休暇をとるようにしています。こういった経験をどう仕事に還元できるだろうかとか、会話で何が得られるのかなとか、今までとは違う目線でも物事を見るようになりました。

**Q仕事を掛け持つことは大変?**

時間的にこなせるのかな?というのは正直ありました。けれども、早めの時間管理ができていけばプッキングすることもないので、その辺は上手く両立できていると思います。また、短大で就職支援の仕事をしているが、講師の仕事と学生の支援というところで相乗効果を生み、仕事で得たスキルが学生支援に活かせることもあります。

### 取材を終えての感想

働いている人たちに向き合っ、よりよい生き方を見つけ出す印象がありました。また勉強だけでなく、何気ない会話や習慣も仕事に活かされていることに大変驚くと同時に、仕事やプライベートの両立が自分の成長にもつながるところに大変魅力を感じました。



取材者 鼓 侑香さん 津田 智子さん  
上田 友哉さん 角田 直也さん

### 法人データ

株式会社 Woman's  
〒698-0002 益田市下本郷町924-6  
業種: 人材育成コンサルタント業  
従業員数: 7名(うち女性7名)

### interview

経営者さん、  
担当者さんの想い  
を聞きました!



社長 宮崎 結花さん

仕事の間が皆バラバラなので、誰が何をしているのかというのをインターネット上で共有できるよう管理をしています。そこに私への相談、メンバーに対してメッセージを送る欄があるんですね。同僚にメッセージを送ることによって、協力し合うきっかけになったり、スキルアップに向けた意欲向上につながったりしています。当社の目標は、次の世代を担う子どもたちが、男性とか女性とかということなく、一人一人が当たり前で力が発揮できるような、そんないきいきとした社会にすること。そのために、今の大人たちが何をするといいのかという点を追求していきたいと思っています。

# Report 03

## 役職員へのヒアリングで 働き方の問題点を抽出!

〔(株)楓ジェラート〕 浜田市



動画はコチラ



### ♡きらめきポイント♡

同じ立場で共に考え共有する

夢を持ちやりがいのある職場づくり

楓ジェラートは、益田市にある(株)松永牧場のグループ会社・(株)メイプル牧場で搾乳される牛乳を原料に、6次産業化の取組みとして2013年9月にオープンしました。女性が活躍できる社内環境を整えようと、同市内にあるキャリアコンサルタント会社に助言を求め、役職員に対するヒアリングを通じて、働き方についての不安点や問題点を抽出。役職員の共通目標を「みんなの幸せ」とし、仕事を進める上での指針としました。

### Q & A

スタッフさんへ質問!!

**Q.店長という立場での  
やりがいなどはありますか?**

店長になってからはいろいろな事をみんなに指示をして、その役割をみんなに果たしてもらうという、常に上向きな仕事を目標として持っていけることがうれしいです。



### interview

経営者さん、  
担当者さんの想い  
を聞きました!



社長 橋本 隆幸さん

代表者だからといってトップダウン方式で運営するのではなく、自分自身から変わる覚悟、変える覚悟を持ち、社員と同じ立場で考え、想いを共有することの大切さを学びました。働く上での目標を定め、何のためにこの会社で働くのかを見つめ直すことが、働き方改革につながったと感じています。取組みの結果、家庭を持つ女性パート社員が自ら正社員に志願してくれ、本人が持つリーダーシップを発揮して、店長を務めてくれています。

### 取材を終えての感想

楓ジェラートは女性の店員さんが多く、明るく仲のよさそうな雰囲気の中で働いていって良かったです。今回の取材で一つの企業だけの取組みではなく周辺の協力も得ながら取組みを行うこと。ただ会社が女性への支援を行うのではなく、それぞれの働き方、やりたいことを見つめ直す機会を作り、自主的に行動を起こしやすい環境づくりが大切であることを学ばせて頂きました。



取材者 浦安 克さん 小貝 千紘さん  
山名 深月さん

### 法人データ

株式会社楓ジェラート  
〒699-3212 浜田市三隅町向野田721-7  
業種: 飲食業  
従業員数: 7名(うち女性6名)

# Report 04

## 子育てママの チームワーク!

〔株)CocoroRibbon〕 松江市



動画はコチラ



CocoroRibbonで働いているのは全員子育て中のママたち。何が大事な事か、必要かを考えて、限りある時間を有効に活用しながら働いています。自分の短所もはっきり言い合える関係だからこそ、生まれるチームワークもこの会社の魅力の一つです。また子どもたちの未来の為に地元企業の発展を全力で応援しており、働きたくても機会や場所のないママたちのサポートも行っています。

### ♡きらめきポイント♡

暖かい雰囲気

チームで協力!

苦手を認め合う

### Q & A

#### スタッフさんへ質問!!

Q.自慢できるポイントは  
何ですか?

できる所を伸ばすサポートをしてもらえたり、苦手なところをチームで補いあえる環境がすごく働きやすいです。また自分の意見をきちんと受け止めて、認めてもらえるところもすごく自慢できる点だと思います!



### interview

経営者さん、  
担当者さんの想い  
を聞きました!

社長 大川 真美さん

基本的にチームで働いていて、苦手な事を他の人に頼ったり、手が空いている人が積極的に手伝ったりすることで、助け合ってチームワークで仕事を早く進められていることが特徴だと思います。またアウトソーシング業に関してもその会社が将来的にどのようになりたいか、どんな会社になりたいかを明確に理解して業務の補助を行っています。

### 取材を終えての感想

今回CocoroRibbonさんの取材をさせていただいて、社員の皆さんとともに温かい雰囲気取材を行わせてもらいました。また、将来について見通しをしっかりと立てて日ごろの業務を行うことや生活することが大切だと強く感じました。



取材者 小松 茜さん

### 法人データ

株式会社CocoroRibbon  
〒690-0822 松江市下東川津町57-6  
業種: 地元企業サポート、プチマワーカー事業  
従業員数: 6名(うち女性6名)

# Report 05

## 社内インフラ整備で 働きやすさUP!

〔飯石森林組合〕 雲南市



動画はコチラ



雲南市にある飯石森林組合は、林業を軸にした「地域と森づくり、それを支える人づくり」を掲げ、バランスのとれた循環可能な森林資源の充実を目指しています。林業を志す女性がいる一方で、山林作業員(ザ・モリト)の女性の人数は、51人のうち2人と少なく、社内環境も十分に整っていないことが課題。女性が働きやすい環境整備に力を入れることで、女性ザ・モリトを増やし、後継者の育成につなげる方針です。

### ♡きらめきポイント♡

山林現場での簡易更衣器具準備

女性専用シャワールーム設置

### Q & A

#### スタッフさんへ質問!!

Q.仕事を続けられたモチベーションは?

毎日、作業現場が変わったり、色々なところへ行ったりするため、仕事を楽しみ感じられるから。また、作業班の方々がいい人ばかりで、和気あいあいと仕事をする事ができるのも仕事を続けられるモチベーションになっている。

Q.林業は力仕事が多いイメージがありますが、  
その点はいかがですか?

機械を使う仕事や木を運んだりする仕事など様々ありますが、全てが力仕事というわけではなく、男性と渡りあえる部分も多いです。また苗木を植えるなど繊細な仕事もあり、一概に女性だからこの仕事は向いてないということは全くありません。

### interview

経営者さん、  
担当者さんの想い  
を聞きました!

参事 小林 信昭さん

2019年度に入組予定の女性からは「飯石森林組合は女性山林作業員がいるというのが魅力」と言われ、環境整備をしてよかったです。今後は、女性だけの作業班の数を増やしたいと考えています。

### 取材を終えての感想

飯石森林組合さんは女性だけではなく、社員の方々全体をサポートする仕組みや環境づくりが非常に整っていると感じました。私たちも就職活動が始まるため、飯石森林組合さんのような社員のサポートが充実している会社があるということは、進路を考える上で、非常に参考になりました。



取材者 内田 啓介さん 中原 広喜さん

### 法人データ

飯石森林組合  
〒690-2701 雲南市掛合町掛合2152-11  
業種: 林業  
従業員数: 124名(うち女性32名)

# Work Style

## 女性の働き方紹介

### 松江市消防本部

#### 予防課予防係主任 消防士長

#### 西尾 郁香さん

子どもの頃から「人を助ける仕事」に就きたいと思っていた西尾さん。専門学校で救急医療を学び、2008年に松江市消防本部に採用されました。前年には、女性専用の仮眠施設が整備され、女性の働きやすい環境整備が進んでいるタイミングでした。

消防隊、救急隊として現場に出て感じたのは「女性消防士の必要性」。救急搬送者の半分は女性で、子どもやお年寄りも多く、症状の聞き取りなどで「女性だからこそスムーズに活動できた」という場面に何度も遭遇したといいます。

間もなく2歳になる子をもつお母さん。現在は育児時間休暇等の制度を利用しながら、予防課に所属しています。防火・防災の大切さを伝える仕事にやりがいを感じつつ、いずれは救急の現場に復帰したいと考えています。

「女性消防士は子育てがしにくいと思われていますが、支援制度が整っているので、実は仕事と家庭が両立しやすい職場。母親になってもこんなふうに働けるんだ、と思ってもらえるよう、自らの活動の幅を広げていきたい」と話しています。



仕事と家庭を両立させながらいきいきと働く女性たちが、島根県にはたくさんいます。

女性たちの奮闘ぶりもさることながら、職場の意識改革や支援制度の充実がはかられ、

女性が働きやすい環境づくりが進みつつあります。様々な現場で輝いている女性4人を紹介します。

### 第一建設株式会社 工事部

#### 松本 次美さん

人手不足が深刻な建設業界で注目されている土木系女子「ドボジョ」。県内で建設や土木に携わる女性でつくる「しまね建設産業イメージアップ女子会」は、女性目線で業界の魅力を発信し、女性が活躍できる環境づくりを進めようと2014年に発足しました。

同女子会メンバーの松本さんは、主に道路建設工事を手掛ける第一建設でパートの事務職を9年間務めた後、現場に出る技術職となり正社員に。長女の高校進学を機に、収入を増やしたいと思い立ったのがきっかけでした。「正社員になって頑張ってもらいたい」という社長の声を励みに、チャレンジを提案された土木施工管理技士2級を取得。現在は、主任技術者として施工計画を作成し、作業工程の管理などを担当するほか、工事前の地元説明や工事中の苦情にも対応しています。

まだ経験が浅いこともあり、うまく仕事がこなせず、「どの現場でも助けてもらってばかり」と落ち込むこともしばしば。それでも同僚や上司、同じ「ドボジョ」の仲間たちに支えられながら、現場を走り回りながら奮闘する毎日です。



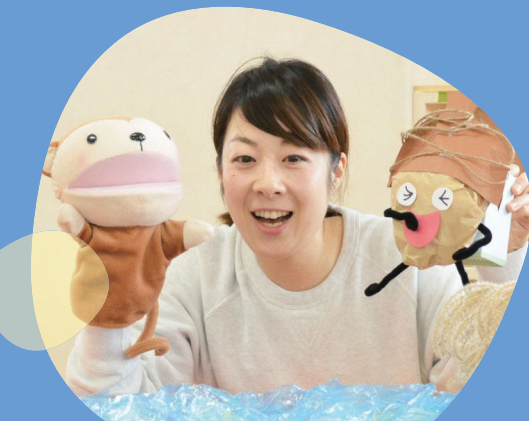
### 社会福祉法人松江福祉会 法吉保育所 保育士

#### 小川 美幸さん

「子どもたちの笑顔と成長に日々出会えること。こんなに笑って、感謝の言葉を多くもらえる仕事はなかなかない」。保育士として約20年のキャリアを持つ小川さん。仕事が大好きで、7年前に第一子を出産し、ただ今子育ての真っ最中ですが、産休前は「同僚に迷惑をかけてしまうのでは」という不安な思いもあったといいます。

ただ、圧倒的に女性が多い保育士の職場で、仕事と育児を両立してきた先輩が多かったことが救いになりました。「子どもの用事があるときは仕事よりもそっちを優先してね、とってもらえて、本当に気持ちが楽になった」と振り返り、気軽に相談できる職場の雰囲気、チームワークが支えになっているといいます。

法吉保育所など7施設を運営する社会福祉法人松江福祉会は、法定基準を上回る数の保育士を配置しているほか、国認定の子育て支援員など非常勤や補助スタッフを積極的に雇用し、近くにお住まいの方に朝夕専門のパートスタッフになってもらうなど、職員の妊娠・出産のフォローを手厚くしています。小川さんは「自分がしてもらったように、若い保育士の支えになりたい」と考えています。



### 出雲市立総合医療センター 内視鏡センター長・内科副部長

#### 結城 美佳さん

出雲市立総合医療センターの内科医として多忙な日々を過ごす傍ら、女性医師のキャリア支援に力を入れる結城さん。二児の母親としての経験を生かし「仕事と子育ての両立に悩む女性医師の力になりたい」と話しています。

島根大学医学部を卒業後、同大消化器内科に入局。間もなく結婚し、翌年には長女を出産して、すぐに職場復帰しました。当時託児施設はなく、入院患者さんに子どもを預かってもらったことも。「周囲の支えがあって医師生活を継続できた」と振り返ります。

ただ、時代は変わりました。同センターは2015年度に「育児支援制度」を創設。希望により直営や土日曜出勤などを免除するもので、非常勤女性医師がこの制度を利用して、常勤へ復帰したケースもありました。

結城さんは、若い医師や学生に同制度の活用を呼びかけるとともに、専門医の資格取得キャリア講座や復職支援セミナーなどに積極的に取り組んでいます。「若い人たちはどういう働き方をしたいか、しっかり考えてほしい。そのためのサポートは続けたい」と話しています。



# 座談会 クロストーク CROSS-TALK

女性が働きやすい職場とは、どんな職場なのか。  
職場環境改善に取り組む企業の人事担当者、  
いきいきと働く女性社員、  
「しまね女性の活躍応援企業」を  
取材した学生たちが集まり、意見交換しました。



## 意識改革、周囲のサポートが大切

女性専用リフレッシュルームの整備や、時間外労働のデータ化など社内改革を進め、2018年度しまね女性の活躍応援企業表彰を受けた総合建設業の松江土建(松江市)。同社で経営企画室長を務める牧野良治さんは「働きやすい職場づくりに一番必要なのは、上司の意識改革」と切り出しました。

同社では誰もが働き続けやすい環境づくりを進める一環として、女性社員が担っていた受付やお茶くみ業務を廃止。当初は現場に戸惑いもあり、「抵抗勢力」もあったといいます。牧野さんは当時の経験を踏まえ「どんなに働きやすい支援制度を整えても、上司がその意義を理解し、配慮しなければ、制度が活用されず、逆に女性や若い人たちが働きにくい職場になってしまう」と指摘しました。

靴小売のシューズ愛ランド松江

上乃木店(松江市)に勤務する曾田仁美さんは2児の母。育児短時間勤務制度を利用し、土日の勤務もある販売の仕事が続いています。曾田さんは「土日が休みの夫と協力し合い、近くに住む夫の実家の協力もあり両立できている」と周囲のサポートの大切さを強調。「若い社員も意見が言いやすく、風通しのよい職場。販売の仕事はやりがいがあり好きなので続けていきたい」と話しました。

交通や地域戦略のコンサルティングを担うバイタルリード(出雲市)の総務経理課に勤務する森山可南子さんは5歳の男の子のお母さんで、フルタイム勤務を続けています。「子どもがぐずって保育所に行きたがらず、上司に相談した時にかけられた言葉に感動した。『大事な時期だから付き合っただけ』。遅れて出勤することになったが、子どもにゆっくり向き合えた」と、周囲の温かい眼差しに助けられた経験を話しました。

## 広げよう 女性活躍応援企業の輪

学生たちは動画や冊子の制作のため、「しまね女性の活躍応援企業」を取材。県内企業の印象について、「福利厚生が充実している企業が多い」「パートから正社員になる制度を設けている企業があり、子育てが落ち着いた段階で検討できるのが良いと感じた」と語り、取材を通じて「就職は県外志向だったが、県内企業も選択肢になった」と、地元企業に対するイメージが変わったという意見が多く聞かれました。

また、自身が求める働き方については、ワークライフバランスを重視する意見が多数を占めました。その上で「社内に信頼できる人がいる職場がいい」「自分の存在を認めてくれる会社に入りたい」など、職場の雰囲気や人間関係、やりがいを重視したいとする意見がありました。

コーディネーターをつとめたWillさんいん代表取締役の金築理恵さんは、「島根県の女性就業率は全国トップクラス。女性活躍を広げる余地はまだある」と指摘。女性が働きやすい職場づくりを進めることは、男性も含めた全体の職場改善につながることを強調し、「しまね女性の活躍応援企業は、まだ全体の1%に満たないが、女性が働き続けやすい職場づくりは徐々に広がっている。もっとPRしていこう」と語りかけました。

### ■座談会出席者

- 牧野良治(松江土建株式会社執行役員経営企画室 室長)
- 曾田仁美(東京靴株式会社シューズ愛ランド松江上乃木店 主任)
- 森山可南子(株式会社バイタルリード総務経理課)
- 内田啓介(島根大学)
- 小松茜(島根大学)
- 小貝千紘(島根県立大学)
- 角田直也(島根県立大学)
- 加藤玲花(松江工業高等専門学校)
- 佐伯日菜子(松江工業高等専門学校)
- コーディネーター  
金築理恵(有限会社Willさんいん 代表取締役)



有限会社 Willさんいん  
の取組みについては  
こちらから  
(H29年度 学生取材)

